ひと

秋田城跡とともに30年

池田 重兵衛さん

秋田城、気がつけば生き字引

史跡秋田城跡で発掘作業をしている人たちから、「秋田城跡の生き字引」と呼ばれ、親しまれているかたがいます。寺内字堂ノ沢の池田重兵衛さん、六十六歳。発掘作業員として、平成七年まで三十年以上も貴重な発見を掘り当ててきました。

発掘は、遺跡の眠る地層までスコップ一本で地面を掘り下げる厳しい作業。池田さんは、「千二百年も前の人が生活していた証を、自分たちの手で現代の陽の光に照らす。掘り当てた感動は言い表せない」と発掘の醍醐味を語ります。「外郭東門跡が見つかったときも、柱跡の太さでピンときました。見当をつけた所から次々に柱跡が出てきて、やっぱり！と思いました」。地層を読み、表面のわずかな痕跡から建物や出土品の姿をあらわにしていく、長年の経験が培った確かな目が「生き字引」といわれるゆえんです。

池田さんは、昨年開かれた秋田城跡の歴史講座を受講。秋田城跡の役割や暮らしぶりの話を、現場で目の当たりにしてきた遺構や出土品に重ね合わせると、当時の姿を手に取るように思い描くことができたそうです。

そしてこの春から、池田さんの呼びかけで講座の受講生が集まって、遺跡を案内したり、自主的に勉強会を開く活動が始まりました。発掘作業は引退しても、池田さんと秋田城跡の「一生のつきあい」は、これからも続きます。

おしゃべり

竿燈チャンピオン育てます

小学生のための竿燈講習会を開く秋田市竿燈会の堀井忠さん

竿燈演技は、小さい頃に身につけた基礎がものをいいます。小若からやっている人は形やバランスが違います。笛や太鼓も同じ。この講習会では妙技会優勝者からも教えてもらえます。小学生のみんな、６月１日から10日は、ねぶり流し館に集まれ！

かわらばん

大昔の仕事に驚きです

秋田城跡外郭東門復元工事の棟梁、宮大工の菊池恭二さん

東門の復元では、柱の膨らみや屋根の反り具合など、微妙なバランスに神経を使いました。東門は、シンプルですが、力強く、安定感のある門です。できあがった東門を見上げ、大昔の大工さんの美的感覚にあらためて驚いています。

歴史を交えてご案内

「久保田城址歴史案内ボランティア」の冨田孝さん(右)と池田紀代志さん

「花のまちづくり大会」で全国からいらしたお客さんに、千秋公園を案内。去年１年間佐竹史料館の講座で学んだことを説明しました。公園の自然と奥深い秋田藩の歴史に感動してくださったようで、秋田ＰＲのお手伝いができたかなと喜んでいます。

広報クイズ71

答えは５月８日、22日の「広報あきた」の記事中に

1 千秋公園の茶室「○○」の庭には、佐竹氏が豊臣秀吉から贈られたという大手水鉢があります。

2 平成12年４月からスタートします。高齢社会を支える大切な制度は「○○○○制度」です。

●**応募方法**　はがきに答えと住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書いて、６月12日(金)(必着)まで、〒010－8560秋田市役所広報課へ。☎(66)２０３４

前回のクイズの答えは、問１が「70億円」、問２が「木こりの宿」でした。全問正解134通の中から、当選した柏木ヒサさん(泉字道田)、小島和子さん(太平八田字荒巻)、沢田石つやさん（大町一丁目)、田口晋さん(太平中関字寺中)、堀井真貴子さん(仁井田本町三丁目)の５人には図書券をお送りします。

読者の伝言板

クイズの答えと一緒に、ほのぼのとした“ひとこと”を、お待ちしています。

●秋田南大橋が開通、対岸の川岸をサイクリング。新屋までお花見に行ってきました。今度は新しくなった新屋図書館に行ってみようかな（高橋真子　33歳・御野場）　●長い年月と膨大な費用がかかった南大橋の完成。秋田の未来が開けたような感じでした（工藤良比古　55歳・新屋）　●消費生活条例が四月からスタート。まずは身近にあるものを工夫、再利用してこそと思い、身の回りを整理しています（土谷猛　62歳・飯島）　●温泉好きな主人は、よく仁別の木こりの宿に行きます。肌がツルツルになって、腰痛も軽くなる効果があるそうです。食堂もグーですよ（鎌田郁子　28歳・牛島）　●せっかく咲いた桜が、あっという間に散ってしまいました。でも、葉桜も何となくきれいな気がします（畠山洋子　17歳・新屋）　●一人娘の卒園、ピカピカの一年生とあわただしく過ぎました。今は少しゆっくりとした気分で広報をみています（石黒裕子　38歳・旭川）　●草生津川の川沿いの道は、犬のフンがあちこちにあってがっかりします。マナーを守らない人は心の貧しい人だと思います（大澤トキ　49歳・八橋）　●冬の間、運動不足解消のためにとグラウンドゴルフで楽しい汗を流しました。特に初心者のかたは大喜び。光沼アリーナありがとう！（田口博　77歳・土崎港）

＝敬称略＝

●**係からひとこと**

「ごみ出しルールも所変われば…」ということで、今回は転勤奥さまの三浦さんに、秋田市のゴミ事情を勉強していただきました。

ところで毎年三月は、一時的に秋田市民が減る月。今年も三月は千五百人ほど転出が転入を上回って人口が減りましたが、四月、五月の転入者でまた増加に転じています。

三月、四月に「新秋田市民」となったかたは六千四十二人。秋田の人、まち、自然、味……。喜んで秋田に来た人も、イヤイヤ秋田に来た人も、ぜひ自分なりの秋田を楽しんでください。そして秋田を好きになっていただけたら幸いです。情報源に「広報あきた」も、どうぞよろしく。（内藤）